

児童室だより No. 75(2011. 4発行)

読んでみませんか 児童室がえらんだものがたり・ちしきの本

本の情報	内容
<p>『目で見える政治 国家のしくみと私たちの選択』</p> <p>アンドルー・マー著 大塚道子訳 さ・え・ら書房 2010.12 【小中～小高】</p>	<p>リーダーの必要性から、政治のはじまりとその仕組み、いろいろな思想・主義などについて、古代から現代まで歴史をたどりながら説明している。カラフルな色使いと、イラストや吹き出しを使った説明により、親しみやすく工夫されている。巻末には用語解説がある。</p> <p>(J310-マ-1110112515)</p>
<p>『うさぎの庭』</p> <p>広瀬寿子作 高橋和枝絵 あかね書房 2010.11 【小中】</p>	<p>小学5年生の修は、引っ込み思案ではっきりとモノが言えない性格。単身赴任の父さんはそんな修を叱ってばかり。母さんも修の気持ちをわかってくれない。だから、部屋で飼っているうさぎが畳に穴をあけたなんてとても言えない。家は父さんの会社の人からの借りものなのに。ある日、同級生が突然転校していった。行方を知りたくて訪ねたおばあさんとの交流が、修を勇気づけていく。</p> <p>(J913-七ロ-1110093948)</p>
<p>『こども文様ずかん』</p> <p>下中菜穂著 平凡社 2010.12 【小中～小高】</p>	<p>日本には、四季の自然を表す文様がたくさんある。文様には、季節がめぐり、作物の実りが平和な暮らしをもたらしてくれるようにという祖先の願いがこめられている。この本では、その文様を春夏秋冬に沿って解説している。巻末には、折りたたんだ紙を切り抜いて文様を作る「もんきりあそび」の紹介と型紙集がついている。遊びながら、日本の伝統文化を学ぶことができる。</p> <p>(J727-シモ-1110113530)</p>
<p>『忘れないよリトル・ジョッシュ』</p> <p>マイケル・モーパーゴ作 渋谷弘子訳 文研出版 2010.12 【小中】</p>	<p>イギリスの農場に住むベッキーは、その年うまれた子羊に「リトル・ジョッシュ」と名づけてかわいがっていた。ある日、恐ろしいニュースが入ってきた。家畜たちを襲う病気「口蹄疫」が発生したのだ。ベッキーの農場でも家畜が口蹄疫にかかり、飼われている牛、ブタ、羊はすべて殺して死体を燃やさなければならなくなった。リトル・ジョッシュだけはなんとか助けたいと思ったベッキーは…。</p> <p>(J933-モハ-1110107257)</p>
<p>『さらば、シッコザウルス』</p> <p>服部千春作 村上康成絵 岩崎書店 2010.11 【小低】</p>	<p>ぼくがおねしょしてばかりいるのは、ゆめにでてくるカイジュウのせい。ふとっちょでぼくより少し大きくて、はなのうえにつのがある。トイレあんない人だといって、ロケットや新幹線、ひこうきのトイレにもつれていってくれたけど、そこでおしっこをすると、いつもふとんがぬれているんだ。おとうさんは、やっつけちゃえていったけど、ぼくにできるかなあ。</p> <p>(J913-ハツ-1110093920)</p>
<p>『雲じゃらしの時間』</p> <p>マロリー・ブラックマン作 千葉茂樹訳 あすなる書房 2010.10 【小高】</p>	<p>「詩を書いてみよう。だいじな人、だいじなものについての詩を。」と先生が言った。サムは、クラスのいじめっこのせいでいなくなったデービーのことを書きたくなった。いじめられてもにげださず、堂々と立っていたデービー。彼がいなくなって、寂しくてたまらない。デービーとの出会いから、秘密の友情、別れまで、詩を書くことにより見つめ直す少年の姿を描く。</p> <p>(J933-フー-1110081698)</p>

本の情報	内容
<p data-bbox="236 259 555 300">『レッツがおつかい』</p> <p data-bbox="193 365 600 472">ひこ・田中さく ヨシタケシンスケ そうえん社 2011.1 【小低】</p>	<p data-bbox="703 230 1485 450">レッツは5才。3才の子がおつかいをするテレビ番組を見て、かあさんととうさんが「えらいねえ」と言っていた。そこでレッツも、はじめてのおつかいに出かけることにした。マンションを出て地下鉄の駅へ行き、大人について改札をぬけ、電車にのった。見たことのあるショッピングモールにつき、なにをおつかいするかを考えてみたが、レッツはお金をもっていなかった。</p> <p data-bbox="1214 479 1485 510">(J913-ヒコ-1110118420)</p>
<p data-bbox="161 566 635 607">『ミンティたちの森のかくれ家』</p> <p data-bbox="118 669 679 819">キャロル・ライリー・ブリンク著 谷口由美子訳 文溪堂 2011.1 【小高】</p>	<p data-bbox="703 555 1485 775">1930年代、大恐慌時代のアメリカ。失業した父親とミンティと妹の3人家族は、叔母さんを頼ってシカゴからミネアポリスをめざしていた。途中の山中で車が故障し、近くの湖畔の家に助けを求めるが留守。その家はヴィンセントさん一家の夏の家で、冬の間は使っていなかった。車を直すお金もないミンティたちは、冬の間、こっそりその家に住むことにした。</p> <p data-bbox="1206 826 1485 857">(J973-ハツ-1110074568)</p>